

学生の学習意欲を促進する 授業設計

徳島大学 総合教育センター
川瀬和也

自己紹介

川瀬和也（徳島大学 総合教育センター）

FDとのかかわり

- 東京大学のプレFD「東京大学フューチャー・ファカルティ・プログラム」（東大FFP）1期生
- 東京大学大学総合教育研究センター特任研究員（東大FFPの運営・広報等を担当）
- JMOOC講座「インタラクティブ・ティーチング」開発スタッフ
- 徳島大学での組織FD開発・運営担当

目標

1. 学生の動機付けに影響する要因を説明できる。
2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を「価値」「期待」「目標」「環境」という言葉を用いて説明できる。
3. とともに研修を受ける教員とネットワークづくりができる。

CONTENTS

- 1. モチベーションの理論の重要性**
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

「モチベーション」が重要な理由

- モチベーションは、学生の「学び」の質を左右する
- 立命館大学の学生参加型FD（「立命館大学学生FDS」）では、「講義が面白いと思った瞬間」をテーマにしたディスカッションで、学生が「ティーチング・スキル」と並んで「学生のモチベーション」を挙げている
- 研究の蓄積があり、授業設計のヒントを得やすい

さまざまなモチベーション理論

- 欲求階層説
- 自己効力感
- フィット理論
- X理論・Y理論
- ソーシャル・サポート
- スピル・オーバー仮説
- 集団凝集性
- ジョハリの窓
- コンフリクト理論 etc……

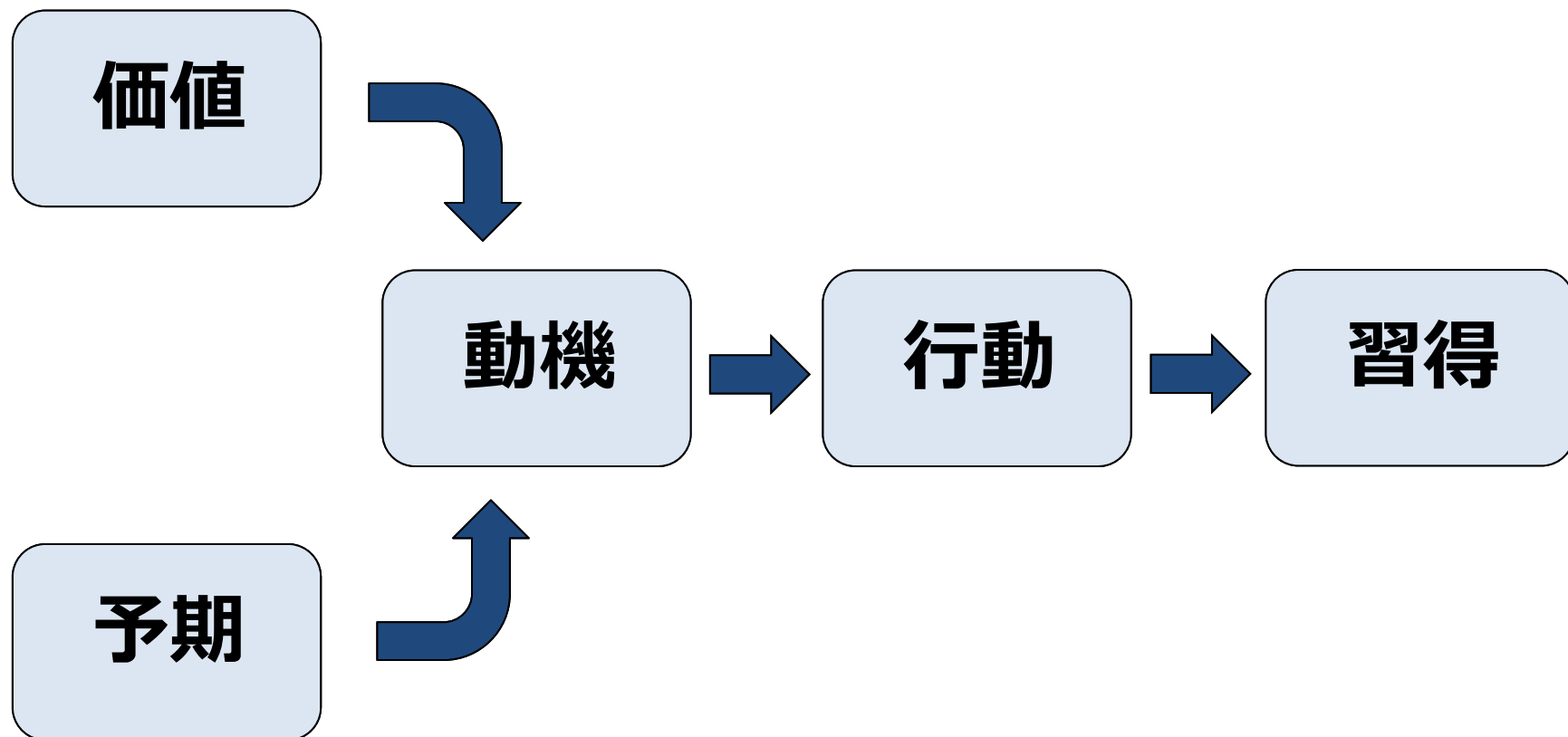
ここでは、「価値-予期理論」に着目

価値—予期理論を用いる理由

- モチベーション理論の多くは、企業におけるマネジメントの文脈に特化
- 価値—予期理論は組織運営の文脈を離れて応用しやすい

→授業デザインに応用しやすい

価値－予期理論



CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
- 2. 価値と予期を理解しよう**
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

価値

- その人にとっての目標の重要性
- 人は、自分が相対的に高い価値をおく目標に向かうとき、それを達成するための行動に高いモチベーションを持つ

価値の種類

➤ 達成価値

- ◆ 目標やタスクの習得と達成から得られる満足感

➤ 内発的価値

- ◆ タスクを行うことそのものから得られる満足感

➤ 道具的価値

- ◆ 他の重要な目標を達成する上で、その活動や目標が役に立つ程度

予期

- 望ましい目標や成果を達成できるという予測のこと
- 望ましい目標や成果を達成できると思えると、それを達成するために必要な行動に取り組むモチベーションが生まれる

予期の種類

➤ 結果予期

- ◆ 特定の行動が望ましい結果と結びついていると感じるかどうか
- ◆ 結びついていると感じるとき、結果予期は「ポジティブ」

➤ 効力予期

- ◆ 自分は望ましい結果をもたらす行動を特定し、組織化し、開始し、実行できるという信念

ワーク：価値と期待（１）

- 価値と期待に訴えてモチベーションを高めようと工夫された文書に、各種教室の広告があります。
- お手元に「ダンス」と「プールエクササイズ」についての広告があります。これらから、読み手にとっての「価値」と「予期」を高める工夫を探してみましょう。

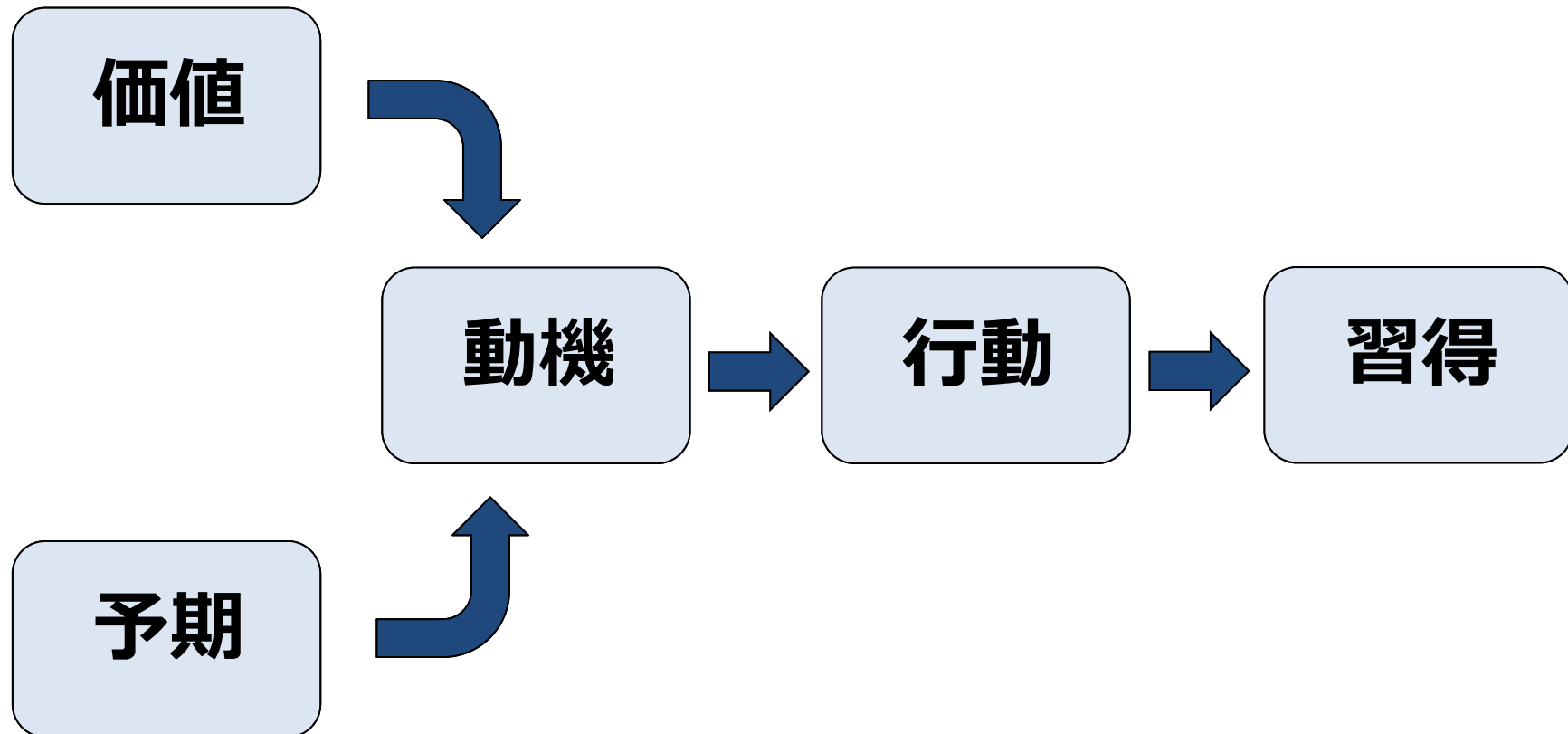
ワーク：価値と期待（2）

1. 指定された課題について、個人で、価値・予期を高める工夫を探し、ワークシートにまとめる
2. 隣の方とペアになり、シートをブラッシュアップ
3. 4人グループになり、シートにまとめた内容を説明・共有

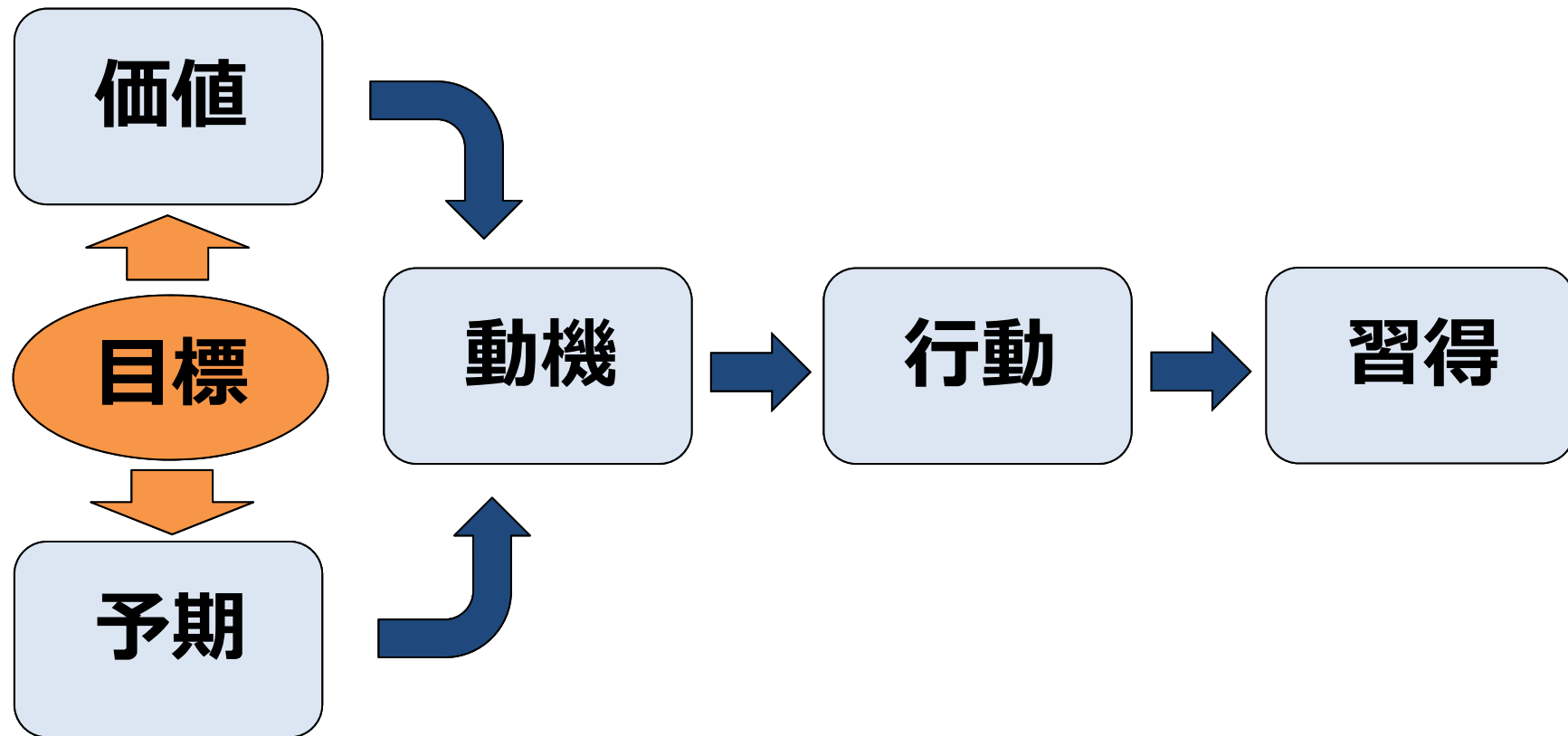
CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
- 3. 目標と環境の役割**
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

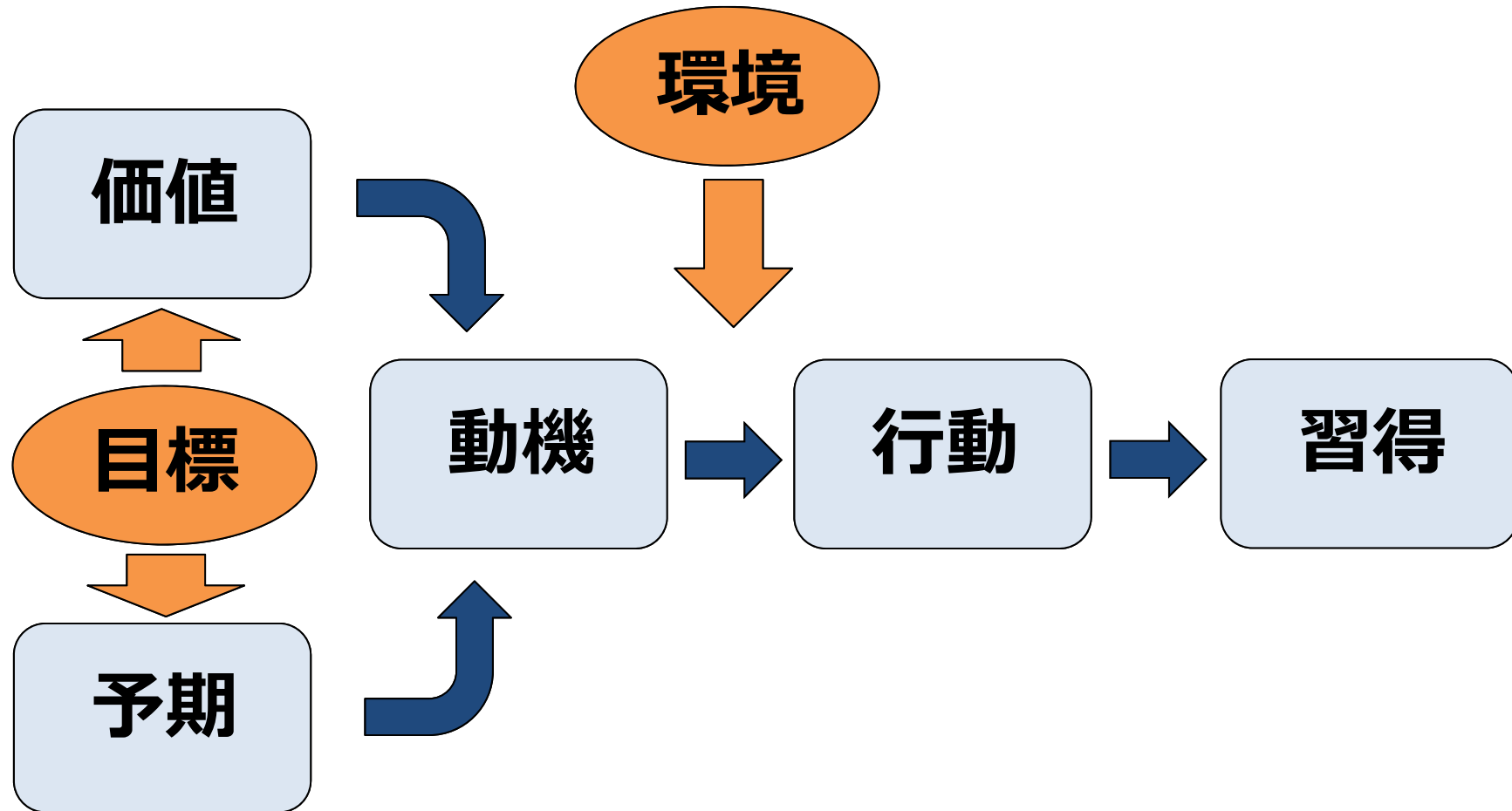
価値－予期理論の隠れた要素



価値－予期理論の隠れた要素



価値－予期理論の隠れた要素



学生にとっての目標

➤ 学習目標

- ◆ 活動や課題の内容について深くりかいし、能力・知識を修得する
(ex. モチベーション理論を活用できる)

➤ 遂行目標

- ◆ 求められた行動をすることで能力を得る・示す（遂行接近目標）
- ◆ 基準を満たすことで無能でないことを示す（遂行回避目標）
(ex. テストで〇〇点を得る)

学生にとっての目標

➤ 課題回避目標

- ◆ できるだけ少ない努力でできるだけ素早く課題を終わらせる
(ex. できるだけ楽に単位を取る)

➤ 感情的目標、社会的目標

- ◆ 楽しい活動をする（感情的）、友達を作る（社会的）など、授業の内容と直接関係しない目標
(ex. 雑談が面白いと評判の科目を取る)

学生の目標と教員の目標

- 多くの場合、教員が想定するのは「学習目標」と「遂行目標」
- 学生の目標と教員の目標は必ずしも一致しない
- 学生の目標と教員の目標が一部でも一致するような工夫が、学生が抱く「価値・予期」を高める

環境とモチベーション

授業に価値・予期を感じているとき

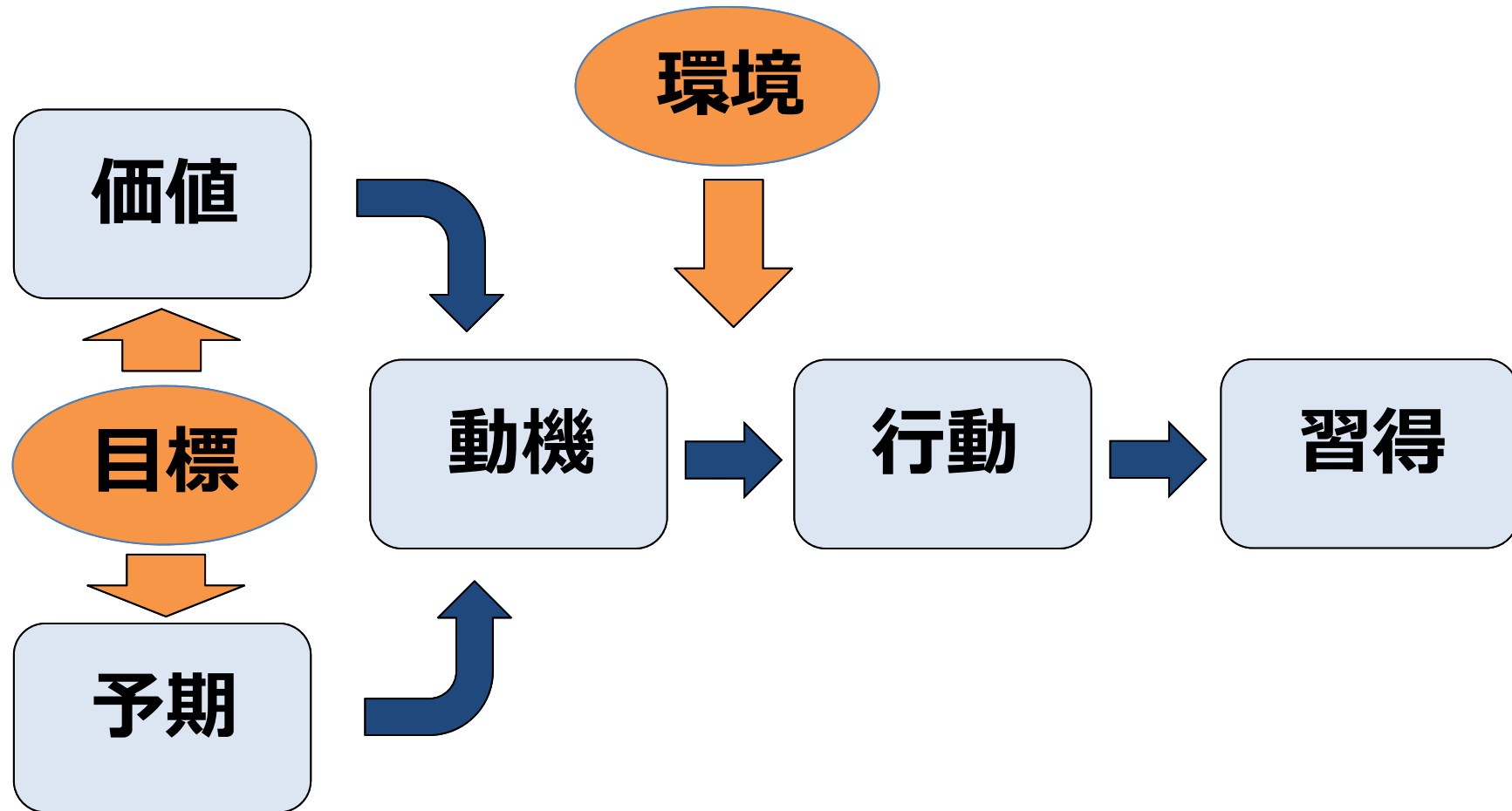
- 環境が非協力的だと……
 - ◆ 学生は反抗的な態度を取る
 - ◆ 自分の能力を誇示する
 - ◆ 教員を出し抜こうとする

- 環境が協力的だと……
 - ◆ 学生は意欲的な態度を取る
 - ◆ この状態が理想的

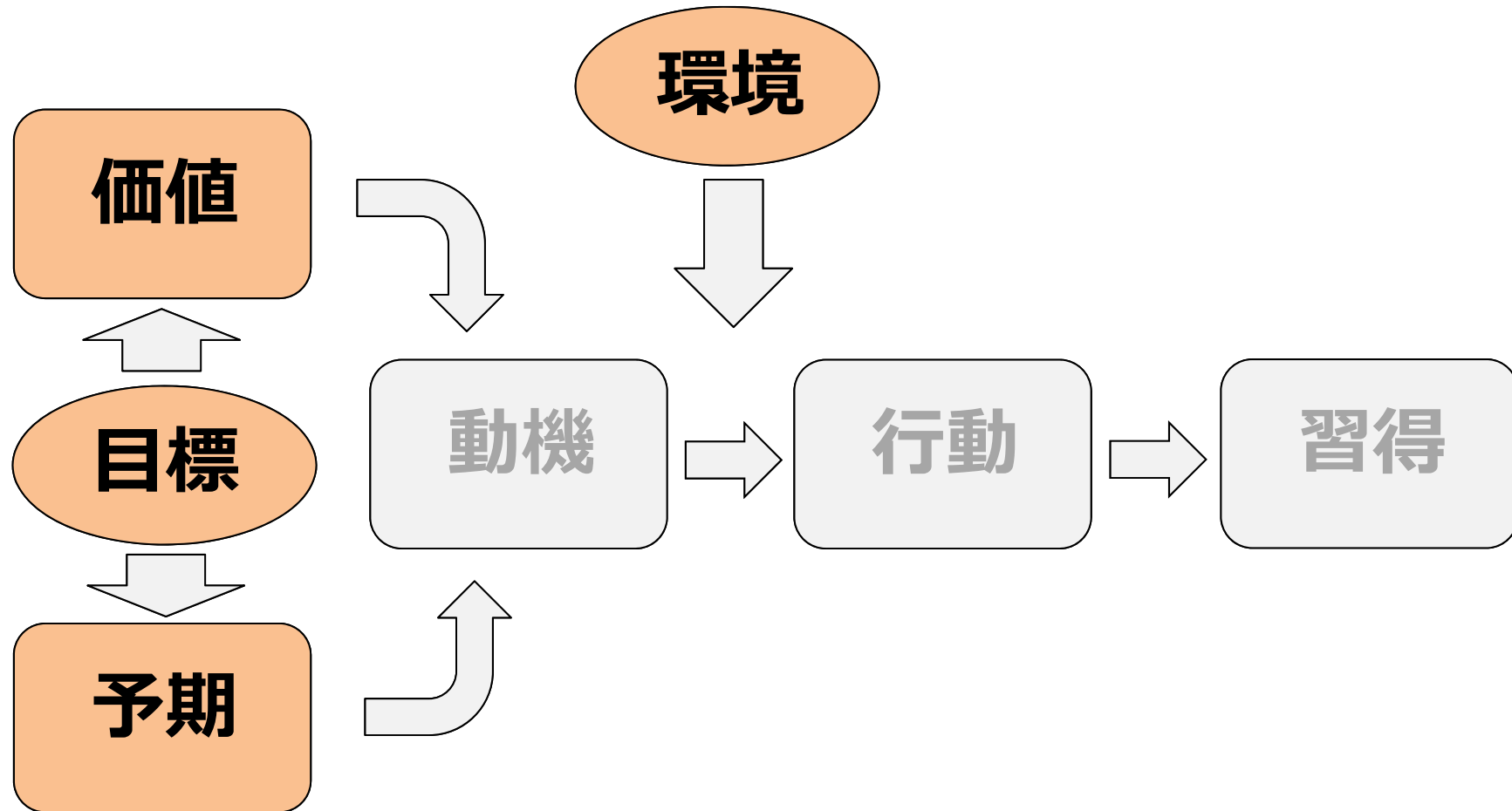
CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
- 4. 価値・予期理論を授業に活かそう**

価値－予期理論を授業に活かす



価値－予期理論を授業に活かす



ワーク：授業に工夫を取り入れる

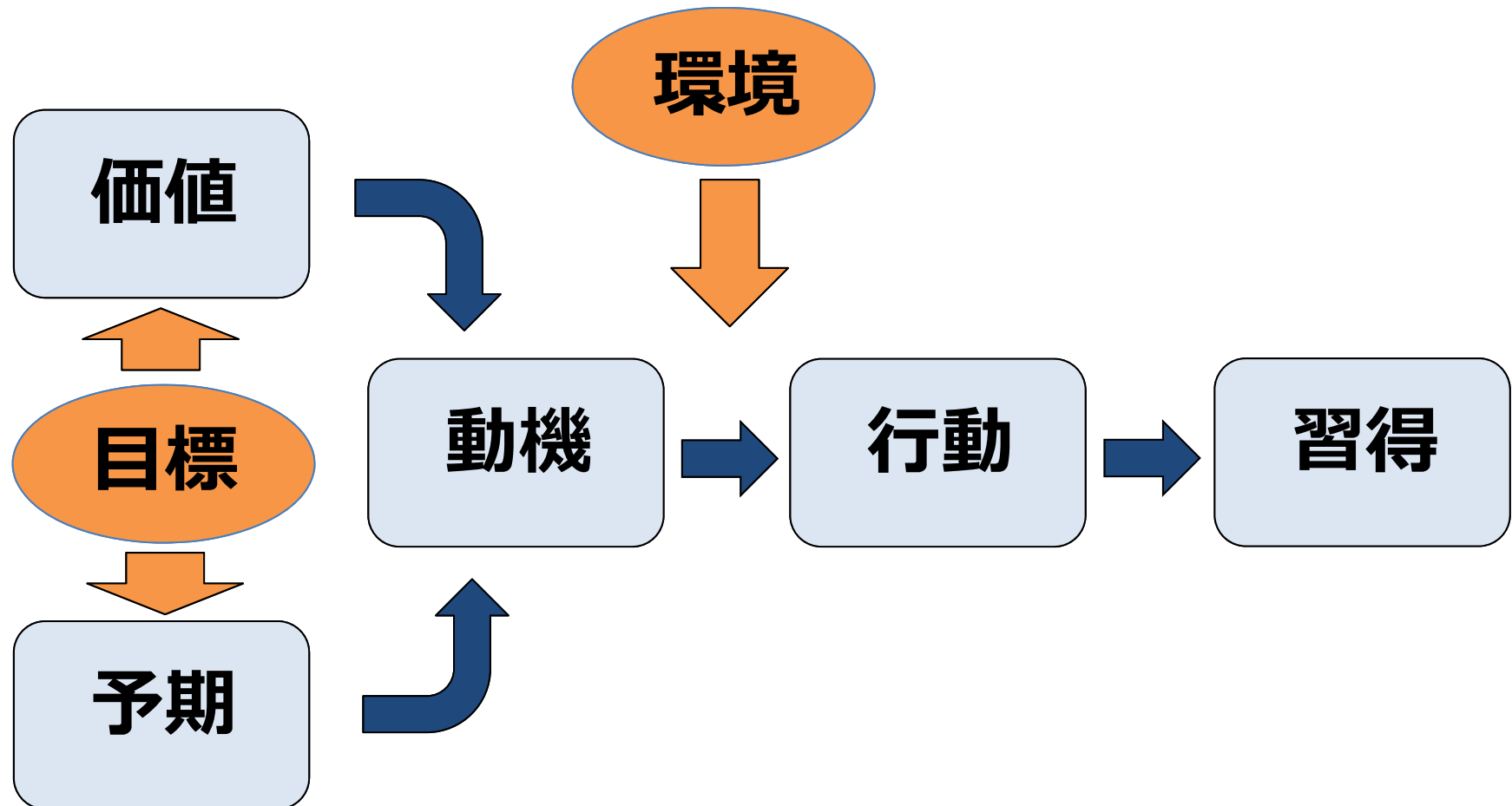
1. ご自身の担当授業について、「ヒント集」も活用しながら、価値・予期を高める工夫、目標設定の工夫、環境づくりの工夫を考えてシートにまとめる（15分）
2. 4人グループになり、シートにまとめた内容を説明・共有し、相互に質問やコメント（12分）

まとめ

1. 学生の動機付けに影響する要因を説明できる。
2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を「価値」「期待」「目標」「環境」という言葉を用いて説明できる。
3. とともに研修を受ける教員とネットワークづくりができる。

まとめ

1. 学生の動機付けに影響する要因を説明できる。



まとめ

2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を「価値」「期待」「目標」「環境」という言葉を用いて説明できる。

→最後のワークで取り組んだ内容を各自で確認してください。